

蔵 王 町

鍛 冶 沢 遺 跡

平成19年度発掘調査 現地説明会資料



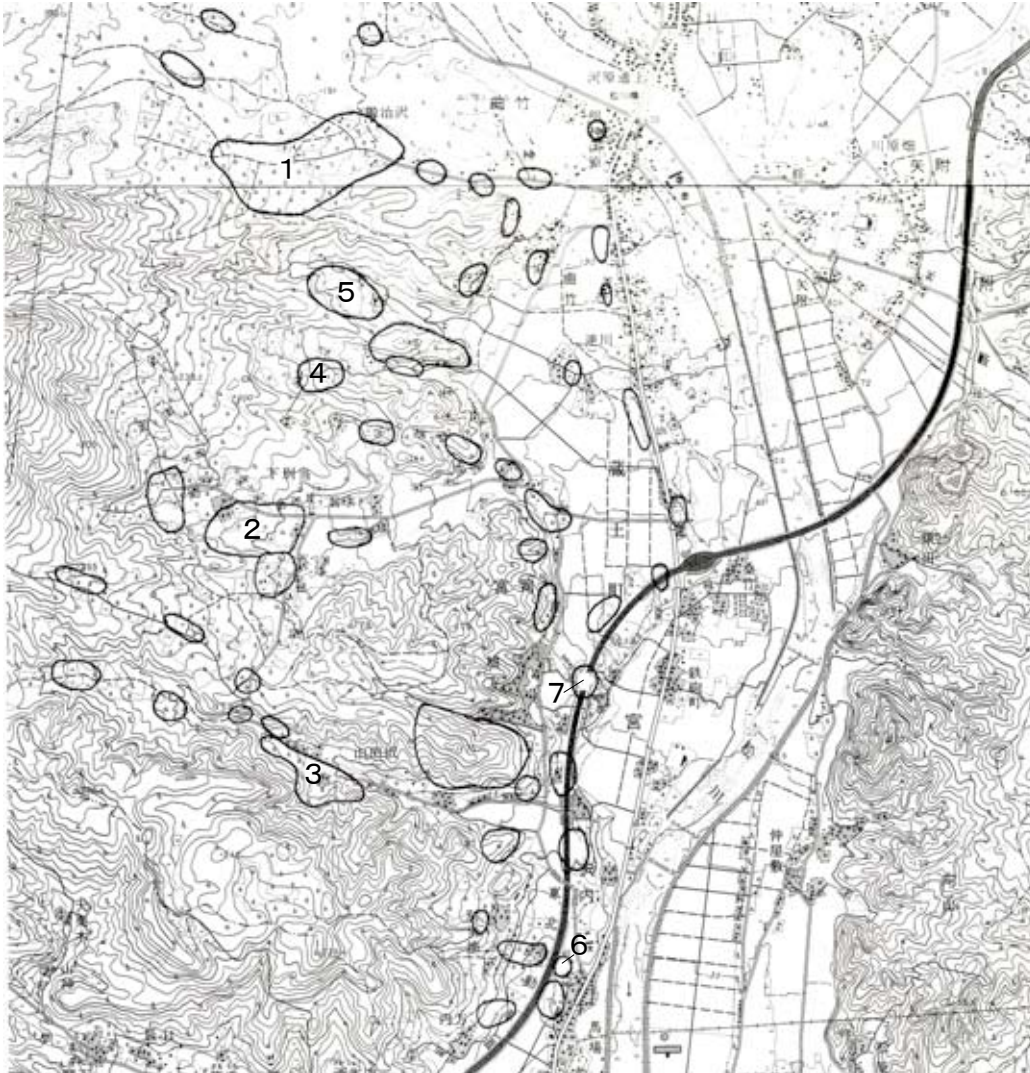
Ⅱ区 掘立柱建物跡（南東から）

日時：平成19年10月27日（土） 午後1時30分～

宮 城 県 教 育 委 員 会

《調査要項》

- 遺跡名 鍛冶沢遺跡
- 所在地 蔵王町曲竹鍛冶沢
- 調査主体 宮城県教育委員会
- 調査担当 宮城県教育庁文化財保護課
- 調査理由 広域営農団地農道整備事業「仙南2期地区」
- 調査期間 平成19年7月1日～11月30日（予定）
- 調査面積 約1,200㎡（10月15日現在）
- 調査協力 宮城県大河原地方振興事務所 蔵王町教育委員会



- | | | | | |
|----------|----------|----------|---------|----------|
| かじさわ | げべつとう | やまださわ | かけやま | あわしまやま |
| 1) 鍛冶沢遺跡 | 2) 下別当遺跡 | 3) 山田沢遺跡 | 4) 欠山遺跡 | 5) 淡島山遺跡 |
| みょうじんうら | にやしき | | | |
| 6) 明神裏遺跡 | 7) 二屋敷遺跡 | | | |

第1図 鍛冶沢遺跡と周辺の遺跡

1. はじめに

「コスモスライン」の名で呼ばれている広域農道（白石川崎線）は、すでに白石市深谷地区と蔵王町下別当地区間で開通しており、現在は蔵王町曲竹地区での整備事業が進められています。この道路建設予定区域内には、今回調査を行っている鍛冶沢遺跡をはじめ欠山遺跡や淡島山遺跡が分布していることから、道路建設に先立って工事により遺跡に影響が及ぶ部分を対象に発掘調査を行っています。

2. 遺跡の立地と周辺の遺跡（第1図）

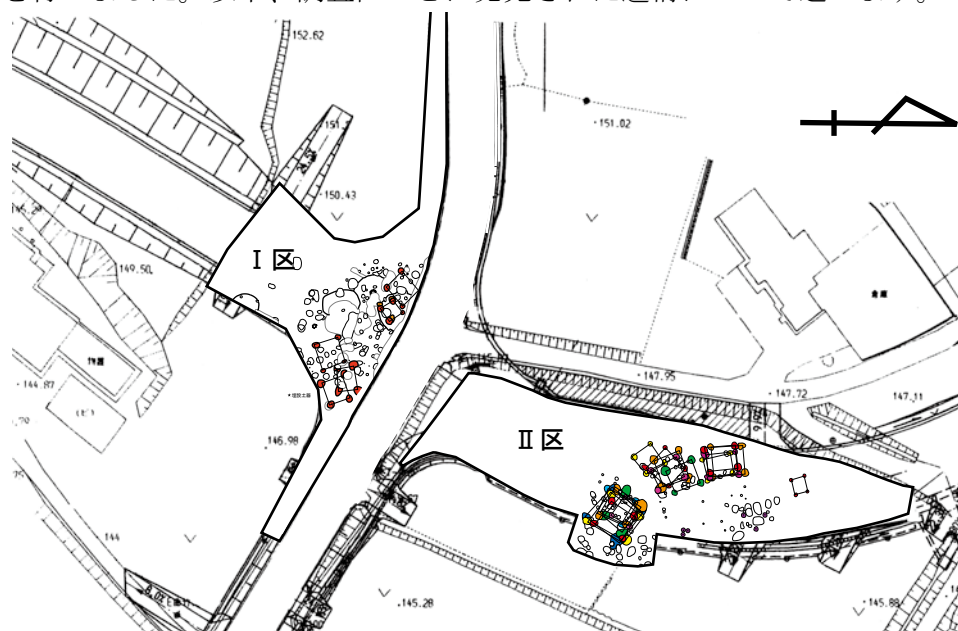
青麻山から東に延びる裾野は何本もの沢が入り、東西に延びるいくつかの小丘陵が形作られています。この丘陵上には、各時代にわたる遺跡が数多く分布し、町内でも遺跡の分布密度の濃い場所となっています。

鍛冶沢遺跡は、その中でも最も古くから中央の学会で知られ、明治37年に刊行された『東京人類学雑誌』の中で「・・・松崎喜蔵所有の畑には遺物豊富なる石器時代遺跡あり。土器は亀ヶ岡式のもの多く云々」と紹介され、学史的に注目された遺跡です。また、完全な形を残す土偶が出土した遺跡としても知られ、この土偶は現在、仙台市博物館に所蔵されています。昭和44年には遺跡の一部が開田される事となり、宮城県教育委員会により発掘調査が行われ、縄文時代終末期の土器・石器などが多量に出土し、当時の紙面を賑わせました。

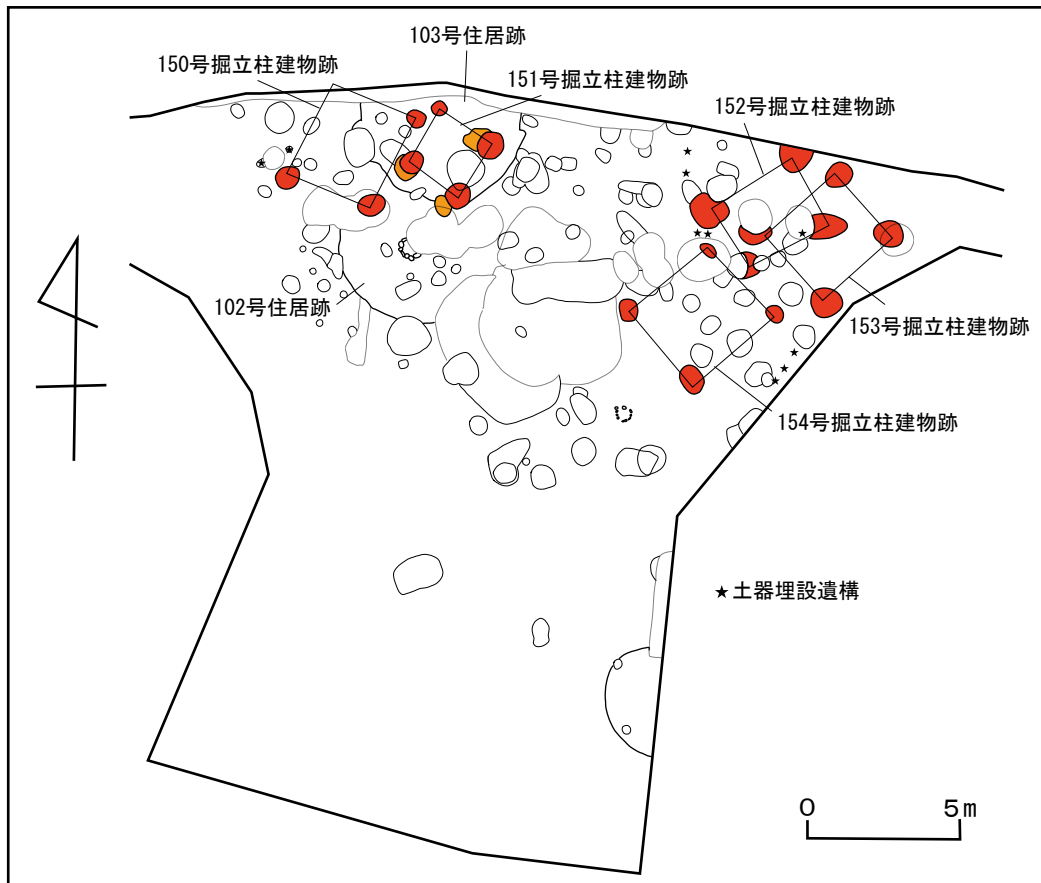
周辺の遺跡には、縄文時代早期の標式遺跡である明神裏遺跡や中・後期の住居跡が多数発見された二屋敷遺跡、後・晩期の大規模な集落と推定される下別当遺跡・山田沢遺跡、弥生時代の清水遺跡などが知られています。青麻山東麓の地域は古くから連綿と続く生活の舞台であったことがうかがわれます。

3. 発見された遺構と遺物（第2図）

遺跡の調査は、県道の路線敷（全長約400m）を対象としています。この範囲を、地形や道路によって4つの調査区（I～IV区）に分け、今年度は遺跡の南側部分（I・II区）について調査を行いました。以下、調査区ごとに発見された遺構について述べます。



第2図 鍛冶沢遺跡の遺構配置図



第3図 I区平面図

○I区（第3図）

たてあなじゅうきょあと ほったてぼしらたてもあと ど きまいせつこう ど こう
 竪穴住居跡4軒と掘立柱建物跡5棟以上、土器埋設遺構10基、土壇が発見されています。

[102号住居跡]

住居の西側部分しか残っていませんが直径5mほどの円形だったと考えられます。床面は遺構の^{かくにんめん}確認面から約20cm掘りくぼめて作られています。当時はもっと深かったものと考えられます。住居の中央部に拳大の石を円形に並べ、その中を掘り下げた炉（石圍炉）が作られています。失われている部分が多く、柱の数など全体の構造を知る手がかりは少ないのですが、地面を掘りくぼめてそのまま^{ゆか}床（^{どま}土間）を作り、「かやぶき屋根」を地面に伏せたような外見だったと考えられます。住居が作られた時期は、縄文時代後期後半（約3200年前）頃と考えています。



左：102号住居跡（北東から）
 上：102号住居跡の石圍炉

[土器埋設遺構]

地面に穴を掘り、土器を埋め込んだ遺構でⅠ区には合計10基あります。調査区の全域から見つか^{ふかばち}り、数基ずつまとまって作られているようです。すべて深鉢を用いていますが、中には底の部分にわざと穴を開けてから埋めたものもあります。土器の内部から骨などは見つかりませんが（*1）、幼児や胎児を葬った施設と考えられています。時期は縄文時代後期から晩期（約3200～2700年前）と考えられます。

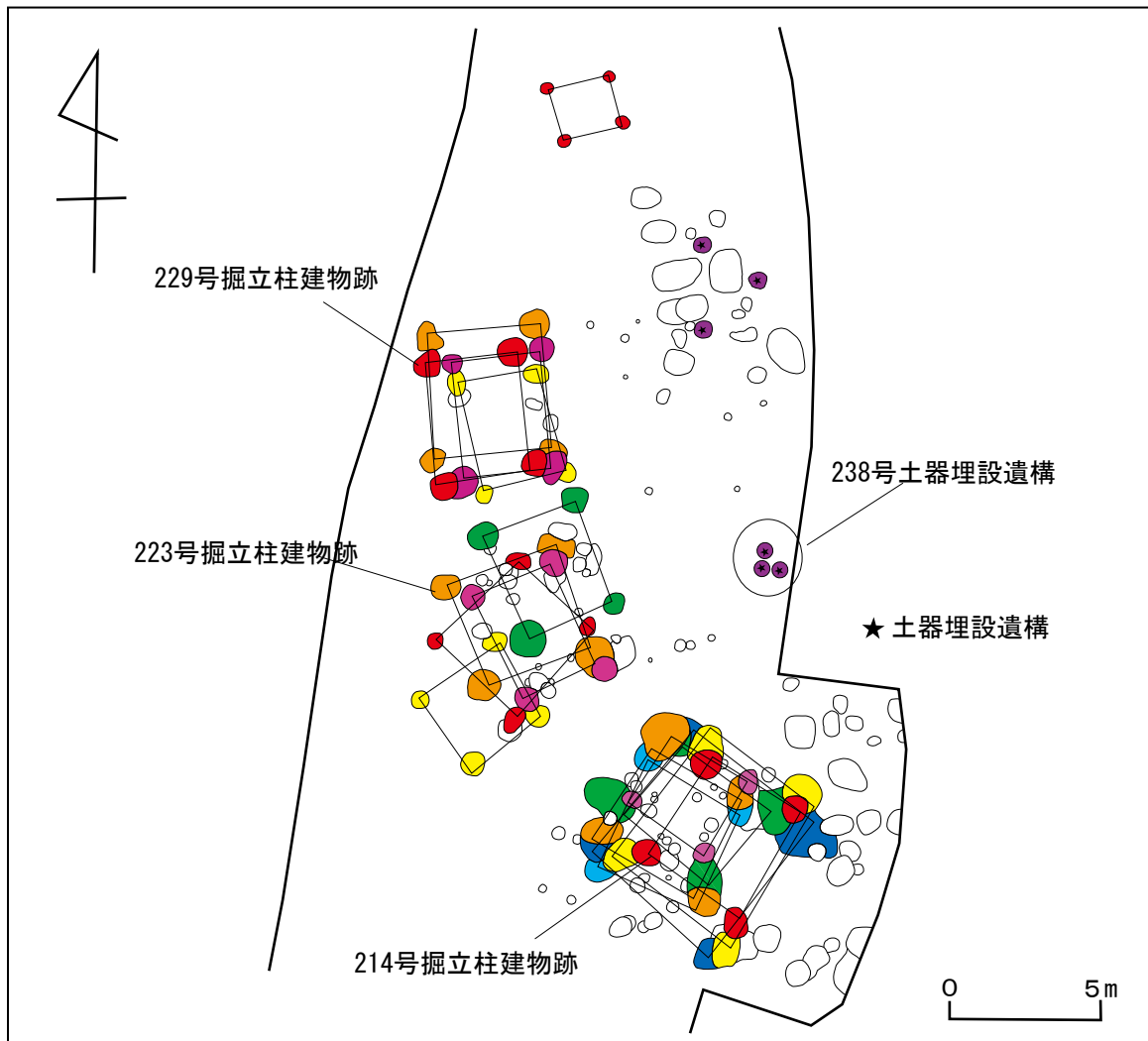
（*1）蔵王町のような酸性の強い火山灰土壌では、骨などは溶けてしまい残ることはほとんどありません。

右：深鉢を利用した土器埋設遺構



○Ⅱ区（第4図）

掘立柱建物跡15棟、土器埋設遺構4基、土壌多数が発見されています。



第4図 Ⅱ区平面図

[掘立柱建物跡]

地面に穴を掘り、直接柱を立てた建物です。この当時の一般的な住まいは竪穴住居であることから、居住とは別な目的で建てられた可能性があります。建物のつくりはいずれも四隅に柱をもつ一間一間のもので、平面形は正方形となっています。規模は一辺3～4.5mありますが、4m程度のもので多いです。柱の直径は、20～30cmのものがほとんどですが、中には直径40cmほどのものもあります。

建物は大きく3箇所にとまって分布し、何回か建て替えが行われています。このことは、同じ場所に同規模で同様な構造をもつ建物が継続的に配置されていたことを示すもので、この「場」が連続的に掘立柱建物跡が建てられていた区域であったことがわかりました。集落の中の「場」の使い分けを知る上で大変貴重な発見といえます。

建物の時期は、縄文時代晩期前半から中頃（2800～2700年前）と推定されますが、詳細は検討中です。同様の遺構は福島市宮畑遺跡（国史跡）などで見つかっていますが、宮城県でこの時期の建物群が発見されたのは初めてです。



左：建物跡の集中するようす
上：柱穴の断面（何度も掘り直して建て替えた様子がわかります）

[土器埋設遺構]

Ⅱ区からは合計4基見つかっています。この中で注目されるのは238号土器埋設遺構で、他とは異なり、壺形の土器が使われています。この遺構は石を避けるように掘られた「L字形」の穴の中に同時に三個の壺が埋められていました。うちひとつには高坏を利用した蓋がしてありました。土器の特徴から弥生時代初頭頃（約2300年前）のもので、遺体を一旦埋葬して骨だけになった状態で回収し、再度壺に遺骨を収めて埋葬した墓（再葬墓）と考えられます。このような埋葬方法は北関東から福島県にかけてよく見られますが、県内ではこの時期の再葬墓が発見されたのは初めてです。



左：弥生時代の再葬墓（238号土器埋設遺構）
上：遺骨を収めた土器（238号土器埋設遺構）

○主な出土遺物

今回の調査で出土した遺物は多量で、整理箱で100箱以上もあります（10月上旬現在）。

おもな遺物には土器類（縄文時代後期後半から晩期全般、弥生時代初頭）、石器類（石鏃^{せきぞく}、石錐^{いしきり}、石匙^{いしさじ}、石斧^{せきふ}、石皿^{いしざら}、くぼみ石^{せきぼう}、石棒^{せきぼう}、イモガイ形石製品）、土製品（土偶^{どせいひん}、耳飾り^{どぐう}）、骨角器^{みみかざ}、アスファルトの付着した剥片^{こっかくき}やアスファルトで補修した土器^{はくへん}、赤い顔料を磨り潰す際に用いた石皿^{ほしゅう}などが出土しています。



4. まとめ

- ① 今回の調査で発見された遺構にはⅠ区からは竪穴住居跡4軒、掘立柱建物跡5棟、土器埋設遺構10基、土壙多数、Ⅱ区からは掘立柱建物跡10棟、土器埋設遺構4基、土壙多数などがあります。
- ② これらの遺構の分布状態をみるとⅠ区とⅡ区とでは大きく異なります。Ⅰ区では調査区全域に性格の違う遺構が分布し、互いに重複しているのに対して、Ⅱ区では当時の一般的な住まいである竪穴住居跡は存在せず、掘立柱建物跡だけが重複して建てられた場所と土器埋設遺構が集中する場所が見つっています。こうした理由については現在検討中ですが、当時の集落の様子や性格を知るうえで貴重な資料となります。
- ③ 弥生時代初頭の再葬墓（238号土器埋設遺構）は県内初の発見であり、この地域に稲作文化が浸透した時期や当時の墓制^{ぼせい}を知る上で重要です。

【 歴 史 年 表 】

時代	年代	おもな出来事	蔵王町内の遺跡	日本のおもな遺跡
旧石器時代	約 3 ～ 4 万年前	日本列島各地に人類の生活痕跡 狩猟・採集の生活		富沢遺跡（仙台市） 岩宿遺跡
縄文時代	約 12000 年前	草創期 土器・石鏃を使用し始める		福井洞穴
	約 5000 年前	早期 貝塚が形成される	明神裏遺跡（宮）	里浜貝塚（東松島市） 三内丸山遺跡
		前期 縄文海進	欠遺跡（宮）	
	約 4000 年前	中期 集落の規模が大きくなる	鞘堂山遺跡（円田） 湯坂山遺跡（円田） 二屋敷遺跡（宮）	寺野東遺跡
		後期		
	約 3000 年前	晩期 東日本に亀ヶ岡文化が栄える	下別当遺跡（宮） 山田沢遺跡（宮） 鍛冶沢遺跡（後～晩期）	亀ヶ岡遺跡 是川遺跡
BC 300 年頃				
弥生時代	AD 300 年頃	稲作の開始 金属器の使用 卑弥呼が邪馬台国を治める	清水遺跡（曲竹） 西浦遺跡（円田） 上野遺跡（円田）	登呂遺跡 吉野ヶ里遺跡
古墳時代	538	大和朝廷による日本の統一 前方後円墳が造られる 仏教伝来	大橋遺跡（平沢） 宋膳堂古墳（塩沢） 堀の内遺跡（円田）	仁徳天皇陵 雷神山古墳（名取市）
飛鳥時代	645	大化の改新		高松塚古墳
	701	陸奥国の建国 大宝律令の制定		
奈良時代	710	平城京（奈良）に遷都	都遺跡（円田）	平城京跡
	724	多賀城設置	六角遺跡（小村崎）	
	741	国分寺，国分尼寺建立の詔		
	780	伊治公磐麻呂の乱		
平安時代	794	平安京（京都）に遷都	東山遺跡（円田）	平安京跡
	802	坂上田村麻呂，胆沢城を造る	下原田遺跡（宮）	
	915	この頃灰白色火山灰（十和田 a）が降る		
鎌倉時代	1192	源頼朝が鎌倉幕府を開く		